

CASBEE-広島 (2010年ver.1)
赤十字血液センター合同社屋

用途等で評価が不要となる項目については、自動的に網掛けが入ります
 欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE 広島 2009年版
 ■ベース評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.2
Q1 室内環境			0.40			3.4
1 音環境		2.5	0.15	-	-	2.5
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		2.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	-	-	
2 界壁遮音性能		2.0	0.60	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	-	-	
1.3 吸音		2.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-	3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-	
1 室温設定		3.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・過低制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性	ゾーン毎に冷房と暖房の切替が可能なシステムとしている。	4.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.7	0.25	-	-	3.7
3.1 昼光利用		5.0	0.30	-	-	
1 昼光率	共用部分である談話コーナーの昼光率:15%	5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備	共用部分にトップライトを設けている。	5.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		4.0	0.15	-	-	
1 照度	事務室・検査室等の照度を750lx以上としている。	4.0	1.00	-	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境		4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.5	0.30	-	-	
1 換気量	25m ³ /h・人としている。	4.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.50	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御	用途上、ビル全体を禁煙としている。	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	2.7
1 機能性		2.2	0.40	1.0	1.00	2.2
1.1 機能性・使いやすさ		3.0	0.60	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		1.0	0.40	1.0	1.00	
1 広さ感・景観		3.0	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	
3 内装計画		1.0	1.00	1.0	1.00	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.1	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	塩ビライニング鋼管、硬質塩化ビニル管を主用途に使用	4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新									
2.4 信頼性			3.6	0.19	-	-			
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-			
2	給排水・衛生設備	節水型器具の採用。配管系統の区分化。	4.0	0.20	-	-			
3	電気設備	非常用発電設備の設置、受電設備の二重化、電力設備の屋上設置。	5.0	0.20	-	-			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-			
5	通信・情報設備		3.0	0.20	-	-			
3 対応性・更新性			3.0	0.29	-	-			3.0
3.1 空間のゆとり			3.0	0.31	-	-			
1	階高のゆとり		3.0	0.60	-	-			
2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	-	-			
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-			
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-			
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-			3.4
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		良好な景観形成に寄与する取り組みを行っている。	4.0	0.40	-	-			4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-			4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地産産の建材の使用等、地域性・アメニティに配慮している。	5.0	0.50	-	-			
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-			3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-			3.9
1 建物の熱負荷抑制		開口部(窓面)をしぼった計画、断熱により負荷を抑えた。	5.0	0.30	-	-			5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-			3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-			
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-			
3 設備システムの高効率化		ERR=18	4.0	0.30	-	-			4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-			3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-			3.5
1 水資源保護			3.8	0.15	-	-			3.8
1.1	節水	節水型器具の採用	4.0	0.40	-	-			
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.6	0.60	-	-			
1	雨水利用システム導入の有無	雨水利用システムの採用	4.0	0.67	-	-			
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-			
2 非再生性資源の使用量削減			3.6	0.63	-	-			3.6
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	基礎梁にて高炉セメントを採用	4.0	0.20	-	-			
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生骨材を路盤にて採用	3.0	0.20	-	-			
2.5	持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.05	-	-			
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み	躯体と仕上げ材が容易に分別可能。再利用できるユニット部材を採用。	5.0	0.24	-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-			3.2
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-			
3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-			
1	消火剤	ハロン消火剤不使用	4.0	0.33	-	-			
2	断熱材		3.0	0.33	-	-			
3	冷媒		3.0	0.33	-	-			
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-			3.5
1 地球温暖化への配慮		太陽光パネルの設置、屋上緑化の採用、透水性舗装の採用等。	4.5	0.33	-	-			4.5
2 地域環境への配慮			3.0	0.33	-	-			3.0
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-			
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-			
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-			
3	交通負荷抑制	広島市共同住宅型建築物に関する指導要綱に定める駐車台数を確保	5.0	0.25	-	-			
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-			
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-			
1	騒音		3.0	1.00	-	-			
2	振動		-	-	-	-			
3	悪臭		-	-	-	-			
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-			
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-			
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-			
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	「光害対策ガイドライン」のチェックリストの項目の過半を満たしている。	4.0	0.70	-	-			
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-			